

機関番号：32665
 研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2009～2010
 課題番号：21730319
 研究課題名(和文) 多国籍企業のグローバル・オンライン調達におけるセーフティチェーンの構築に関する研究
 研究課題名(英文) A Study on Approaches to Build Safer Global Online Purchasing Networks in MNCs
 研究代表者
 井上 葉子 (INOUE YOKO)
 日本大学・商学部・講師
 研究者番号：00339673

研究成果の概要(和文)：

本研究は、多国籍企業のグローバル調達においてウエートを増し続けている、インターネットを経由したオンライン調達のセーフティチェーン構築に関する調査研究である。具体的には、つぎの2点に焦点を当てた。まず、ヒトとヒトの接触機会を格段に減らしたインターネットによる部品および原材料の調達に際し生起する、調達品の安全性についての問題である。もう1つは、現地で収集したデータに基づき、いかにして多国籍企業が主導するグローバル・サプライネットワークにおける安全性を保証する仕組みを構築するかという問題である。

研究成果の概要(英文)：

This research focuses on the safety and sustainability factors related to global online purchasing within multinational company context.

After a number of in-depth investigations into the process and the flow of global online purchasing within MNCs, we are being able to gather enough first-hand data to establish our hypothesis, which we will continue to test against their generalization.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：国際経営、グローバル・サプライチェーン・マネジメント、国際電子調達

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景として、グローバル・オンライン調達は特にその効率性とコスト

優位性が際立っており、多国籍企業が競争優位を獲得する調達手段として、今後ますます採用されることが予想された。一方、オンラ

イン調達の急増に伴い、多国籍企業のグローバル・サプライチェーン上ではアウトソーシングの割合が急激に拡大したため、サプライチェーンの上流に位置するサプライヤの数、業態ともに極めて細分化され、複雑かつ多様化しつつある。したがって、調達者側からは直近の取引相手のサイトから先はなにも見えない状態になっているというのが現状である。その結果、今日ではオンライン調達されている食料品、電化製品などの日用雑貨をはじめアメリカ国防省の戦闘機部品に至るまで、ありとあらゆる分野で様々な統制上の問題が生じており、安全性が問われるようになってきているのである。今後は多くの研究者がグローバル・オンライン調達に関するサプライチェーンの問題について関心を持つようになり、当該分野の研究が発展、成熟していくと考えられる。この分野の研究が確立すれば、効率性とコスト優位性一辺倒の研究によって見過ごされている既存の弊害や将来発生しうる弊害について早期に予測・特定できるようになり、弊害を未然に防止する手段を提供することが可能となろう。このように、グローバル・オンライン調達は暴走制御装置の付いた経済発展の推進エンジンとして、グローバル経済の発展とグローバル厚生向上に大きな役割を果たすようになるだろう。

2. 研究の目的

本研究における安全性とは、以下の4つの概念(QHHE)を包括するものとして定義する。すなわちQuality(品質保証)、Health(健康かつ清潔)、Humanity(人道的)、Eco-friendliness(環境との共存)である。本研究ではこれら4つの要素が確実に内包されている部品や原材料、あるいは製品を調達できる統制システムを、多国籍企業内に構

築する可能性とその手法の一般化を模索する。

(1) 本研究では、中国を主たる対象地域とするが、東南アジア諸国も研究対象に含めるものとする。一経営学者の観点から分析したグローバル・オンライン調達におけるこれまでのグローバル調達の相違は、以下の3つである。①オンライン調達の方がよりコストが低く、公平性が高い。したがって、生産性の向上により社会厚生が高められる(Known)、②いわゆる伝統的な調達手段(多国籍企業の調達部門による現地サプライヤとの直接的な商談)によって、内部統制がある程度まで保たれてきた。このような伝統的な調達手段は理論的、実証的な研究が数多く行われており、多くの学者たちによって、その本質が明らかにされてきている(known partly)、③一方、グローバル・オンライン調達は極めて今日的な企業行動であり、理論的にも実証的にも確立された研究はまだ見られない。オンライン調達に関する最近の研究のほとんどは、その効率性とコスト優位性を中心に論じるものであり、QHHE統制に関する研究は皆無といえ、その実態については全くの未知(unknown)である。本研究は、この第3のUnknownの部分明らかにすることを目的としている。

(2) 本研究を通じて、中国で数多くのインターネットビジネスに関する調査を行ってきたため、グローバル・オンライン調達の調査に関する知識やメソッドロジーも蓄積できるであろう。本研究者はこれまで中国市場におけるインターネット消費者行動の調査のほか、企業の経営活動調査やクレジット市場の調査などの学術調査を行ってきた。中国での調査研究活動を効率的かつ効果的に計画・実行する知識は、ある程度蓄積ができたと考えている。本研究によって、現地での調査研究

の知識やメソドロジーがさらに蓄積されていくことが期待できる。このような中国での調査研究のノウハウや知識も成果としてまとめ、中国市場の研究者とシェアリングしていきたい。

3. 研究の方法

本研究は、平成21年、平成22年の2年間を3段階に分け、進めてきた。

平成21年度第1段階は同プロジェクトの準備段階として、本研究に必要なリソースと協力関係を確立した。既存のグローバル・オンライン調達市場に関する文献と情報の収集する一方、協力関係の確立については、中国調査協力受入企業と整理分析の協力を要請する高等教育機関および企業とに分け、それぞれ適材適所で協力してもらおう要請をした。

第2段階では中国において現地調査を実施した。現在中国でオンライン調達の最大手である「アリババ・ドット・コム」と「中国物資采购网」（中国物質調達ネット）に協力を依頼し、同社のサイトを経由するグローバル調達の現状について情報提供してもらった。調達ルート追跡先は経費と時間の制限で、沿海地域にある複数の製造下請密集地域および食料加工基地とその他のいくつかの内陸地製造発達地区に限って行った。よって、非常に信憑性の高い1次データを獲得することができた。

第3段階においては資料の整理、分析、検証および成果の発表にフォーカスした。中間報告として、調査結果を学会で発表し、国内の有識者に報告した。これまでの研究に対し、意見と指導を受けることができた。また、諸外国の同じ分野の有識者（大学、業界）と交流し、各方面からの見解を伺って、成果を上げることにつながった。

4. 研究成果

(1) 本研究は、今日の研究領域で「unknown」とされている分野を開拓するという意味において先駆的な研究であり、草創期を築く研究として成果を上げることができた。既存のグローバル・オンライン調達分野に関する国内外の学術文献の多くは、オンライン調達の効率性、アクセサビリティ、コスト優位性、将来性に関して優れた分析を行なっている(Löscher&Lambert 2007, Griffiths&Howard 2008, Van den Poel&Buckinx 2005, Prema 2005, etc)。また、グローバル・オンライン調達をさらに合理的に行うために、様々なオンラインツールとソフトウェアが開発され、その研究も盛んである。しかし、グローバル・オンライン調達の安全性の保持というパースペクティブから、企業統制の可能性と有用性を論じる系統立った研究はまだ行われておらず、実証的研究も理論的研究もなされていない状況にある。したがって、本研究はこの分野に一石を投じ、多国籍企業研究およびグローバル・サプライチェーン・マネジメント研究の新たな領域を開拓するものである。

(2) 本研究では、中国のオンライン調達の現状を中心に現地調査するほか、中国市場で運営されているオンライン調達サイト企業のフロントライン従業員を対象とした調査も並行して実施した。それは、ネットというバーチャル環境におけるビジネス行動は、現実のビジネス行動とは異なるため、そのサイト作りに大きな影響が及ぼすことが予想されるからであり、実際予想通りの結果が得られた。このような新しいビジネス手法においては、発注企業も受注企業も手探りでの行動が多いため、オンライン調達におけるロジックを理解する必要がある。したがって、今後追跡調査のみならず、需給状況によって日々サイトの内容とレイアウトを変更している第

一線のニーズクリエイターに対しシステムチックな調査を行うことによって、より正確でより意義深い調査につながることを期待できる。

(3) グローバル・サプライチェーン・マネジメントの新たな方向として、持続可能な国際調達が大きな課題となってきた。このパラダイムの転換に伴って、今までのグローバルSCMの枠組み内に、持続可能性の要因を導入することによって、今後グローバルビジネスの持続的な発展が可能となってくる。本研究において、成果の一部であるサステイナブル・グローバルSCMにおける概念的な枠組みを構築することができた。

A Conceptual Framework For SSCM		
CONCEPT	SGCM	SSCM
Flow	Open-Ended Linear	Closed Loop
Product Life	Cradle to Grave (C2G)	Cradle to Cradle (C2C)
Focus	Process Efficiency	Product Design
Enabler	Improvement	Innovation
Evaluation System	Economical	Triple Bottom Line
Stakeholder	Companies and Customers	Multiple Interest Groups
Inoue, Yoko (2011)		

これまでのグローバルSCMの研究パラダイムにおける主要な領域について、今後サステイナブル・グローバルSCMの研究パラダイムへと転換していき、その領域は一層拡大するであろう。

(4) ダイナミック・グローバルサプライチェーンマネジメントについて新たな管理手法のコンセプトを開発した。(井上葉子 2010 参照)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 井上葉子 Establishing a Conceptual Framework for Sustainable Supply Chain Management、『商学集志』、査読有、第80巻第4号、2011年、pp. 51-69。
- ② 井上葉子 An Empirical Study on

Dynamic Global Supply Chain Management (DCSCM) ~From a Network Perspective ~、『商学集志』、査読有、第80巻第2号、2010年、pp. 1-16。

〔学会発表〕(計1件)

井上葉子 「サステイナブル・サプライチェーン・マネジメント戦略に関する比較研究」国際ビジネス研究学会第15回全国大会、横浜国立大学、2009年10月25日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井上 葉子 (Inoue Yoko)
 日本大学・商学部・専任講師
 研究者番号：00339673